

第46回 全労済 東京

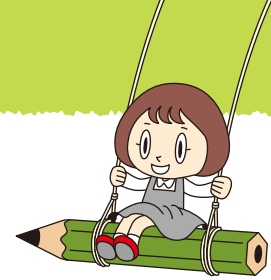
テーマ

作文：どきどき・わくわくしたこと
版画：自由課題



主催：全労済東京推進本部

後援：東京都教育委員会



はじめに

小学生作品コンクールは、1973年度の第1回開催以来、今年度で46回目（46年度目）を迎えることができました。今回は、作文153点、版画1,450点、合計1,603点の素晴らしい作品をお寄せいただきました。当コンクールに向けて、一生懸命作文を書き版画を作り、応募くださった皆さん、本当にありがとうございました。

今回の作文のテーマは「ドキドキ・わくわくしたこと」でした。皆さんの普段の学校生活や各ご家庭の中で感じた驚きや感動が、ひとつひとつ言葉として彩り鮮やかに表現されており、まるで皆さんと一緒にドキドキ・わくわくを体験しているかのような気持ちになる、いきいきとした作品の数々をお寄せいただきました。

版画は今年度も「自由課題」でした。今年の干支のいのししをはじめ、愛らしい犬や猫などの動物、風景画から空想上の生き物、抽象画や自画像など、多種多彩なテーマと自由自在な発想がそれぞれの作品に詰め込まれていました。また、紙版画や木版画、単色の作品や多色の作品など、素材や色を上手に使い、さまざまな技法で制作いただきました。

本来は皆さんからご応募いただいた作文・版画の作品のすべてをご紹介したいところですが、紙面の都合上、作文・版画の金賞・銀賞に輝いた31点のみとさせていただきます。ご容赦ください。

最後になりますが、審査いただいた先生方をはじめ、ご後援いただいた東京都教育委員会、応募にあたりご指導およびとりまとめをいただいた先生方、そのほかご協力いただいた皆さまに心より御礼申し上げます。

全労済東京推進本部



第46回 全労済小学生作品コンクール表彰式

主催 全労済東京推進本部



挨拶する高須本部長

喜びと笑顔に満ちた表彰式

二月二十四日(日) 十時三十分より、全労済東京推進本部・三階会議室において、第四十六回全労済東京小学生作品コンクールの表彰式が開催されました。表彰式には、作文・版画の金賞・銀賞入賞者三十一名と、そのご家族やご指導された先生方、総勢一〇四名の方々にご出席いただきました。

表彰式は、全労済東京推進本部の高須則幸本部長の挨拶で始まり、その後、入賞者一人一人に表彰状が手渡されました。受賞者の皆さんは緊張しながらも、堂々と表彰状を受け取られていました。

続いて、作文の部入賞者を代表して、東京都のコンクールで金賞を受賞され、中央コンクール(関東を中心とした一都九県)で最優秀賞を受賞された成蹊小学校四年生の小林珠梨さんによる代表朗読が行われました。小林さんは、感情を込めて元気良く丁寧に作文を読み上げ、会場は大きな拍手に包まれました。

最後に、作文の審査を担当された宮崎光次郎先生と版画の審査を担当された齋藤貴子先生にそれぞれの講評をいただき、作文や版画などの創作活動を通して発見することや工夫してみることの大切さ、自分自身の思いや考えを持って表現することの楽しさや素晴らしさについてお話いただきました。

閉会後、作文・版画の部門ごとに記念撮影を行いました。全労済公式キャラクター「ピットくん」も登場し、緊張もほぐれたのか喜びいっぱいの笑顔があふれた撮影となりました。

なお、東京・四谷三丁目の「CCAアートプラザ ランプ坂ギャラリー」にて、二月十三日から二月二十日まで金賞・銀賞・銅賞の作品の展示会を開催し、多くの方々に受賞作品をご覧いただきました。



少し緊張気味の受賞者の皆さん。



審査員の先生方に講評をしていただきました。



表彰式の様子



受賞者の皆さん



表彰式の会場に
受賞作品を
展示しました。



作文の部を代表して受賞作品を朗読しました。

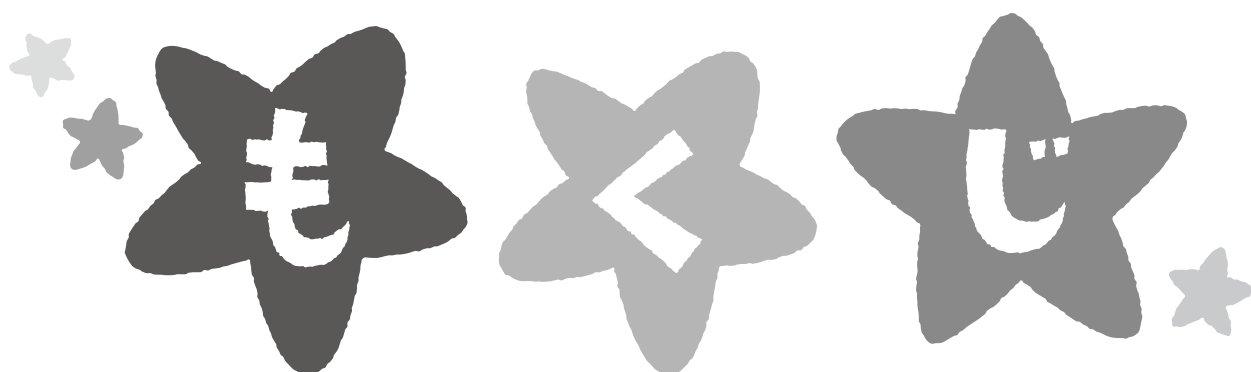


🌸🌸 作文の部 受賞者の皆さん 🌸🌸



🌸🌸 版画の部 受賞者の皆さん 🌸🌸





作文の部

コンクール入賞者

●金賞作品

.....

10

●銀賞作品

.....

26

●作文の審査を終えて

.....

47

版画の部

コンクール入賞者

●金賞作品

.....

50

●銀賞作品

.....

56

●版画の審査を終えて

.....

62

応募いただいた学校と作品数

.....

63

応募作品数・学校数

.....

64



そうしうまれる……………足立区立千寿常東小学校（1年）
 二つのドキドキ……………足立区立千寿小学校（2年）
 すてきな日本の文化にふれて……………中央区立明石小学校（3年）
 わたし色……………成蹊小学校（4年）
 一振りに込めた願い……………台東区立谷中小学校（5年）
 ドキドキ・ワクワクパティシエ選手権……………光塩女子学院初等科（6年）

鈴木 百佳さん
 大槻 建人さん
 山尾 詞葉さん
 小林 珠梨さん
 中山 志輝さん
 山口 瑠花さん



たのしかったな なつやすみ……………新宿区立市谷小学校（1年）
 わくわく・ドキドキおあい手活どう……………東京学芸大学附属世田谷小学校（2年）
 将棋イベントの日……………明星小学校（3年）
 ドキドキするカブトムシとの毎日……………光塩女子学院初等科（4年）
 江戸風鈴のわくわく体験……………光塩女子学院初等科（4年）
 達成感を感じる……………練馬区立泉新小学校（5年）
 空からの贈り物……………光塩女子学院初等科（6年）
 わくわくする事……………目黒星美学園小学校（6年）

鈴木 瑛和さん
 井上 ミモザさん
 小林 由作さん
 小山 愛莉さん
 鮫島 麻里菜さん
 菊地 こころさん
 宮田 侑季さん
 伊藤 百合さん



1人でのるひこうき……………大田区立山王小学校（1年）
 一いだったうんどうかい……………帝京大学小学校（1年）
 とくべつなアイスショー……………東久留米市立第二小学校（1年）
 たからくじに当たったら……………目黒星美学園小学校（1年）

田中 夏音さん
 平田 彩華さん
 安井 咲季さん
 川崎 洋平さん



コンクール入賞者

音楽室の大きなピアノ	足立区立東洲江小学校 (2年)	樋口 文音さん
どきどきわくわくしたこと	光塩女子学院初等科 (2年)	岡 海英さん
はがめけた	光塩女子学院初等科 (2年)	鈴木 芭奈さん
ドキドキワクワクしたリレー	光塩女子学院初等科 (2年)	中村 翠さん
ぼくのバイオリン	目黒星美学園小学校 (2年)	佐当 泰地さん
この夏一番の思い出	足立区立千寿小学校 (3年)	関 日衣菜さん
待っててね。一年生	光塩女子学院初等科 (3年)	御園生 なぎささん
私がどきどきしたこと	新宿区立市谷小学校 (3年)	山田 千凜花さん
どきどきわくわくする事	目黒星美学園小学校 (3年)	草薙 深央さん
ぼくは面白いめし使い	東京都立大塚ろう学校 城東分教室小学部 (4年)	天野 奏音さん
十五人の仲間とともに	桐朋小学校 (4年)	佐々木 恵大さん
ドキドキワクワクホームステイ	目黒星美学園小学校 (4年)	茨田 侑奈さん
小さな1人旅	光塩女子学院初等科 (5年)	高橋 いとさん
どきどきわくわくの力	光塩女子学院初等科 (5年)	竹村 舞佳さん
初めての宿泊学習	墨田区立業平小学校 (5年)	垂水 愛奈さん
ソーラン節が教えてくれた事	練馬区立泉新小学校 (5年)	日ヶ久保 りささん
うれしかった初めてのソロ	東久留米市立第二小学校 (5年)	細田 陽葵さん
地球の生き物	光塩女子学院初等科 (6年)	松野 ゆりさん
友情を深めることができた騎馬戦	帝京大学小学校 (6年)	台サヴィ アミフリーさん
憧れの雪	東京都立大塚ろう学校 城東分教室小学部 (6年)	成瀬 琥太郎さん



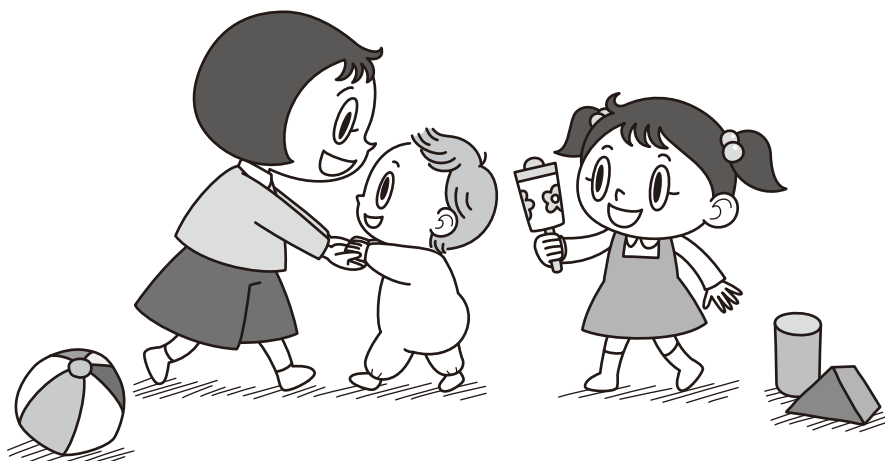
そうしうまれる

足立区立千寿常東小学校（1年）

鈴木 すずき

百佳さん ももか

そうしうまれる
一ねん すずき ももか
「パパ。ようちえんやすんでそうしのびよう
いんにいくよ。」
そうしがうまれたあや、ドキドキワクワク
してわたしは、いいました。
「こんなにうれしいきもちだ。たんだ。わす
れてた。」
いもうとがうれたときのことを、おもいだ
しました。
すえ、このそうしは、ちいちゃんで、ぶに
ぶにして、わざとへんなかおなしたりして、
おもしろくて、かわいいです。
わたしは、そうしのことをじやうちや
うにおもいだしたりしました。そうしたら、
にこにこしちゃいます。
まだちいさいそうしとあそぶときは、ゆっ
くりはしたり、ちいさくなってあげたりし
ます。そうしがよろこぶと、わたしはまた、う
れしくなっ てにこにこしちゃいます。





わたしのだいいじなものわかつて、わざとかくしたいします。すぐにみつかるでしょう。おいであります。そうしは、いたずらをしてかぞくをわらわせてくれます。

そうしがうまれてわたしは、あいさいつのもちがわかるようになりました。そして、ものをゆずることができるようになりました。いもうとがうまれたあと、にがいめだからです。

そうしがうまれてかぞくは、いそがしくなりました。でも、かぞくのやさしいえがおのきもちもうまれました。

わたしといもうとは、ぱぱとママのおてっだいが、すすんでできるようになりました。いもうともわたしにまけずに、ちいさいころのきもちやゆずるきもち、やさしいきもちがたくさんうまれました。

そうし、うまれてきてくれてありがとう。

選評

弟が生まれたことにどきどき・わくわくしていることが書き出しからも伝わります。途中「弟が生まれて家族は忙しくなった」と大変さにくれる中で、家族に起こったプラスの変化に気付いたところが鈴木さんの素敵な気付きだと感じます。弟を大切に思う気持ちや妹や家族との関係など素直に気持ちが読み手を温かな気持ちにさせてくれます。



二つのドキドキ

足立区立千寿小学校（2年）

大槻 建人さん
おおつき たけと

二つのドキドキ

大つき たけ人

ぼくは、七月のおわりの土요일に、ママと二人で、ママのじい家へ行きました。はじめてハッピをきて、おまつりに出るためです。ママのじい家は、ぼくがすんでいるところとぜんぜんちがいます。田んぼや、はたけばかりで、山がちかくて、虫がたくさんいて、かえるのこえはすぐうるさいのに、道はあるいている人はいません。ママの妹のまゆちゃん、

んだんさんのヨッシーちゃん、四さいの男の子のよっちゃんも、おまつりのために、とまりに来ていて、おまつりがはじまる日よりのどろが楽しかったです。日よりのあさ、ぼくがねていると、へやの外から、ヨッシーちゃんか、

「タツケ、フリに行こう。」

とよびました。ぼくは、ヨッシーちゃんと、夏休みにつりに行こうとやくそくしていたことを思い出しました。ママはねていて、気が

ついていません。ぼくはバックの中から、ティーシャツと半ズボンをさがして、ママをおささないようにそろそろと、はつてへやをぬけ出しました。フリに行けることがうれしくて、ハイテンションでこえがでるうたをうたげど、こえを出したと、みんなにばれちゃうと思っ、ちもちをおさえてしずかに、いつものはいのスピードでかえりました。ごはんもたべずに、かおもあるわず、はもみが、かないで外に出るなんて、今まで一どもやっ

たことがなくてきたないなあと思っただけ、車にのって出はつしてみたら、へい気になりました。川は、すずしかったです。とうきょうでは、まい日があつて、あさおきたらあせをながすためにシャワーに入っ、クーラーをかけないとごはんがたべられないのに、まるでべつの国みたいですよ。ぼくのしんちよりよりのたかい草がワサワサと生えています。ヨッシーちゃんはずりざおとクーラーボックスをもつてきてくれました。イソメとい



う気持ちわるい虫の、魚まだますにせもの
エサが入ってしまいました。でも、べつのねりえ
さをつかうことになって、ぼくはちよつとほ
つとしました。ねりえさはゆひでちよつとつ
まんで、丸めてごねて、つりはりの先、ぼく
かくれるようにのせました。左でさおをも
って、右手ではりのついた糸をジュツと川の
中へなげました。うまくなびられなくて、地
めんにおちてしまったのを、ヨツシーちゃん
はぼくの右手をもって、いっしょになげてく
れました。ぼくはうきをじつと見つづけてい
ました。りよう手でさおをもっている、ピ
クピクと、魚のうごきがつたわってきました。
そのしゅん間、（来た！）と思って、さお
をもち上げようと思いました。そしたら、
「まだまだ、うきがグイッて、しずむまで
まって」とヨツシーちゃんが教えてくれまし
た。そして今では、
「今だ。」
と大きいつえで言いました。

ぼくは（行くぜー。）という気持ちでさおを
ちき上げました。さおの先には、小さいけい
魚がいたのです。少しずつじぶんの方に糸を
ひっぱって、魚にさりました。ツルツルし
ていて、つめたかったです。ぼくがはじめ
つた魚は、ぼくの手の手より小さいけ
れど、でん池が入っているみたい。ビツク
ンと云気いうづいていました。ぼくは
ダイニングをつかんでちきもつるつとサ
きました。するとヨツシーちゃんのけいたい
がなり、よっちゃんが起きて、なきながらパ
パとぼくをさがしていると言われました。ぼ
くたちは、あわてて帰りました。ママはまだ
おていします。ぼくはわざと大きなつえで、
「つりに行ってきたんだよ。ちきつれた
んだよ。」
とつたえしました。ママはおどろいてから、一
人でおきてさがえをえらんで出かけたことを
ほめてくれました。はみがきのことはおこ
れませんでした。ぼくは、一日の間に、ない

しよで、フッそり出かけるドキドキと、魚を
フリ上げるドキドキのニつちかんじました。
大ぼうけんに出かけて、大せいこうして帰っ
て来たヒーローのような気もちになりました。
おまつりも楽しかったけれど、このニつのこ
とを思い出すと、今でもむねがドキドキしま
す。

選評

多くの自然に囲まれたいつも
と違う家で、家族とお泊りをす
る楽しい一日。その家から、み
んなにばれない様に抜け出して
釣りに行くという「大冒険」の
ドキドキがまっすぐに伝わって
くる、臨場感あふれる文章です。
また、その冒険を経て大きく成
長した様子がわかります。これ
からも様々な感動を大切にして
成長していったほしいです。



すてきな 日本の文化にふれて

中央区立明石小学校（3年）

山尾 やまお
ことば
詞葉さん

すてきな日本の文化にふれて
中央区立明石小学校三年 山尾 詞葉
「今から心を落ち着かせてください。」
これは、初めての書写のじぎうで先生が
言った言葉です。あたしは毛筆を一点都不や
たことがありませんでした。
「いよいよ始まるぞ・・・」
あたしは、むねのこ動が高鳴りました。そし
て、ピンとせずじをのびしました。
初めて使ったぼく液は、クレヨンやえん筆
の色とはちがう黒さで、砂をまぜたような不
思議な香りがしました。その香りをかぐと、
なぜかむねがサワサワしました。太筆は、さ
い初ば先がとがってカチカチしていました。
それを一生けんめいほぐしたら、やっとなフワ
フワになりました。あたしは、
「カ加げんがむずかしいな。」
と思いました。
「筆をぼく液につけてみてください。」
先生が言ったとたん、みんなはすぐさまとり

かかりました。あたしもワクワクしながらし
ん重に、筆をぼく液にひたしました。そして、
半紙に書いてみると、と中からパサパサにな
てしまったりギザギザギザになっ、てしまっ、た
りして、むずかしかったです。
「トンツ スートツ」のリズムで書くことよいで
すよ。
と、先生がポイントを教えてくれました。た
めしてみると、少しむずかしかったけれどぎ
れいな字が書けました。
「まほうみたい。」
わたしは先生からまほうのじぎもんを教わ
たようであれしくなりました。
周りを見わたしてみると、いつもお調子者
の友だちも真けんにとりくんでいて、教室中
がシンとしずまり返っていました。あたしは
そのふんいきにドキドキしました。そして、
このしずかな空間が心地よいなと思いました。
日本には、書道のほかにも茶道や華道とい
う文化があります。どの道も、静と動のメリ

ハリがあつて魅力てきだと思ひます。わたしは、落ち着いた空間がすきなもので、色々チャレンジしてみたいです。

選評

胸の鼓動。墨の独特な香り。静まりかえった教室。初めての書写の授業のどきどき感を全身で感じ取った山尾さん。教わった「トンツ、スートンツ」のリズムを『魔法の呪文』と見事な比喻で表す感性が素敵です。2020年の東京オリンピックに向けても、日本の文化の素晴らしさを体験すること知ること大切ですね。是非これからもチャレンジを続けてください。



わたし色

成蹊小学校（４年）

小林 珠梨さん

こばやし しゅり 小林 珠梨さん

わたし色

４年 小林 珠梨

「大人」て、不思議だな。

大人になると、ワクワクする事が少なくなる
とテレビの中の誰かが言っていた。私にはそ
れが、どうしても理解できないのだ。

なぜなら、私の人生は、ワクワクとドキド
キの連続だから。

「起きろ。」

朝、お母さんのこの声で私の一日は始まる。



成蹊小学校

眠い目をこすりながらの朝食時間。ドキドキ
ワクワクする一日のスタートだ。

「今日は何をしようかな。」

「何か新しい発見はあるかな。」

そう考えるだけで自然とニヤニヤしてしまう。
しかし、１年間365日、毎日楽しい！という
わけにはいかない。

「のろまなカメ」

自分を動物に例えるなら、これが一番しく
りくる。

なぜだか自分でも分からないが、いつも私
は遅いのだ。

本日はピョンピョン元気に跳ぶウサギや、
広い草原をワンワン自由に走り回る犬の様に
なりたいと思っているのに、なかなか現実
はそうもいかない。

学校では今、皆が大縄に夢中になっている。
「あ、また大縄か……」

と、朝のワクワクタイムが、どんよりタイム
になってしまっていた。



成蹊小学校

お母さんに

「大縄嫌だな。みんな他の遊びをすれば良い
のにな。」

と小さな声でつぶやくと、

「何て？」

と聞いてきた。

「私カメだからさ、上手く跳べないんだよ。」

と答えると、

「カメって可愛いじゃない。」

と、あ、けらかんと私に笑顔で答えた。

「本当に急いで欲しい時は、早くして。て言うてしまふけれど、何でも早ければ良いというわけではないのよ。あせらないでがんばれば、カメだって跳べるようになるし、楽しいと思うよ。お母さんが、早くしなさいって言いすぎなのかもね。ごめんね。今度からは気を付けるね。ゆっくりで良いよ、可愛いカメちゃん。」

カメもなかなか良いものだなと思ったら、どんよりタイムがワクワクタイムになった。



成蹊小学校

その日は、早く学校へ行って大縄に挑戦してみたかった。急いで教室へ行くと、大縄をやっている友達の輪に入った。

ドキドキした。同時にワクワクもした。また縄にひっかかってしまつたら、友達はどうな顔をするかな？ 残念がるかな？ いろいろな気持ちの中をグルグルこわれた時計の様に回っていたが、勇気を出して一歩前へ出てみた。気がついたら、縄の中を跳んでいた。「や。た。跳べた。」

目の前の世界が、上へ下へくり返されていく。

「さあ、縄の外に出るのもがんばるぞ。」

タイミングを見極めながら、大急ぎで出た。出た後もしばらくドキドキが止まらなかった。とても心地良いドキドキだった。

そんな時ふと隣を見ると、どんよりタイムの友達がいた。ああ、少し前の私と同じ気持ちなのだなと思っただ。その友達にこの素敵な気持ちをプレゼントしてあげたくなつた。次



成蹊小学校

の休み時間、すぐにでも大縄のグループに入りたい気持ちをグッとおさえ、友達の所へむかった。自分も最初は怖かった事、跳べた時の気持ちが出す感じ、縄から出た時の達成感。全てを伝えた。いつの間にか、友達と私と一緒に大縄グループに入っていた。そして、跳べる様になった。その時の二人の笑顔は、一人の時に感じた素敵な気持ちよりも、もっとも、と大きなものだつた。

私の毎日は、私次第。私が進みたいと思え



成蹊小学校

進むための準備だと思っから。
長く長くのびる。わたし色の未来を想像
するだけで、ワクワクドキドキが聞こえてく
るようだ。

ばどこへだ。て行ける。そこにはきっと、楽
しいことや美しい物が待っている。もちろん、
嫌な事や残念な事もあるかもしれない。しか
し、それを怖がっていたら、前へは進めない。
「勇気を出して、行こう！」
と決めた時、目の前には沢山の道が広がって
いる。
疲れた時は、休めば良い。もしかしたら、
後ろを向いてしまふ日もあるかもしれない。
それでも良いと思う。それは、また一歩前へ

選評

世の中には沢山の驚きや感動
があります。しかし、嫌なこと
や辛いことも多くあります。そ
の中で「勇気を出して」前に進
むことの大切さを教えてくれる
作品です。また、小林さんの気
持ちは、家族の言葉や自身の勇
気によって変わっていき、それ
が友達に伝わっていく話の構成
も素晴らしいです。是非、これ
からも自分らしさを大事にして
ください。



一振りに込めた願い

台東区立谷中小学校（5年）

中山

志輝さん

一振りに込めた願い

中山 志輝

「絶対勝つぞ」

「オー」

キャプテンを囲んでみんなで言った。

今日は決勝戦。今までで一回も立ったことのない山の頂点にたどりつきたい。打ちたい。しっかり守りたい。ピッチャーを支えたい。色々な思いで挑んだ。今日、この日、この時にたどりつくまで様々な練習をした。冬には

トレーニング、走る、何度も怒られる、つらいことがいっぱいあった。だけど、つらいことをし、自分のためになった。だから力がつき、この時を向かえられたのだ。

試合が始まるといきどろした。いや、いきどろを越えなくばくした。私の守備位置はライオン。一球一球ピッチャーに声かけをし盛りあげる。すると打球が飛んできた。心臓がばくんばくんと叫んだ。走ってスライディングをしてみた。ばくんばくんとしていた心臓

は少し落ちついた。スリ、アウトになって走ってベンチに戻った。チームメイトが、「ナイスプレー、よかったね」と声をかけてくれて嬉しかった。

攻撃になり打順がまわってきた。声援はいつも以上に大きく、守備の時以上にいきどろして体かふるえた。ふるえたせいかわ、しっかりバットを振れずサードゴロになった。しまった。この回は一点も取れず、くやしいまま守備位置に走った。しかし、チャンスはまだあ

ると思うといきどろかわくわくに変わった。そのわくわくした気持ちで守備に入ると自然に楽しくなり、大きな声でピッチャーをばげますことができた。

最終回、二点差で負けていたが、みんなでつないで一点差までつめた。一死、ランナー二、三塁、バッターは私。ここで一打できればさよなら勝ちのチャンスだ。すると監督とかが「スクイズのサインだすからな」と言った。正直え、と思った。でもやるしか

作文の部

ないと思った。バッターボックスに入ると、
 やはりスクイズのサインがでた。ピッチャー
 は投げた。ランナーはスタートを切っている。
 私はバントの構えになった。絶対当てるぞと
 強くハに思った。ところか、相手のバッテリ
 ーがわざと球を外してきた。バットを遠くに
 投げだすように、思い切り手を伸ばした。当
 たらない。ランナーはスタートを切っていた。
 キャッチャーはランナーを追いつめる。タッ
 チ。ランナーはアウトになっ。てしまった。こ
 れで二死。しっかり当てないといけなかった
 のに。くやしい気持ちに心が残る。最後まで思
 い切りバットを振った。けれども三振をしてし
 まった。
 「ゲームセット」
 しんぱんが叫ぶ。負けた。四対五で負けた。
 くやしい。くやしい。くやしい。山の頂点ま
 であと一歩だったのに。
 閉会式まで時間があつた。試合のことを思
 い出す。できなかったことは練習でしっかり

六	七	八	九	計
1	2	0	0	5
1	0	0	1	4



やればいいと自分に言い聞かせ気持ちをや
 変えることができた。バッターホッグス、試
 合中、たくさんどきどききんちようしたけれ
 ども、初めての決勝戦はとてちえ実した試合
 だった。つらい練習と一緒に頑張ってきたチ
 ームメイトと野球ができるのもあと一年。こ
 の大会で頂点に立てなかった、ささめ忘れ
 ずに練習を積み重ね次の大会では頂点に立つ
 ぞと心に決めた。

選評

書き出しの気合いの言葉、短
 い文で綴られる中山さんの思い
 や練習の振り返りが決勝戦に向
 けた決意を読み手に伝えます。
 非常にテンポ感がよく一瞬で文
 に惹きつけられました。「試合ま
 で」「試合中」「これから」と分
 かりやすい構成で中山さんの心
 情変化が分かります。来年は頂
 点に立ってほしいと心から応援
 したくなる作品でした。



ドキドキ・ワクワク パティシエ選手権

光塩女子学院初等科（6年）

山口 やまぐち

瑠花さん るか

ドキドキ・ワクワクパティシエ選手権
光塩女子学院初等科 六年 山口 瑠花
本屋さんでの事だ。た。私が大好きな「パ
ティシエ☆すばる」という本を買う時に、本
の帯に小学生パティシエ選手権の紹介がされ
ていたのだ。それを見た私は応募してみた
てたまらなくな。た。

何のお菓子を作ろうかな、考えはじめる
とワクワクがとまらない。ただ、私は一人で
お菓子を、た事はまだない。少しずつアイ
スを

光塩女子学院

アを出してみた。

いくつか考えていくうちに面白い事
を思いついた。私は小さな頃から折り紙が得意だ。
クレープで折り紙を作、たらどうだろう？
こんなお菓子は見た事がない。考えただけで
興奮する。

早速応募の写真を撮るために材料をそろ
えて作りはじめた。しかし、実際や、てみると
イメージ通りにいかないのだ。クレープを裏
返す事も難しい。フライ返しでは折れたりし

て綺麗に裏返せないので手で持、て裏返そう
としたら熱くてヤケドしそうにな、た。さら
に焼きあが、たクレープが薄すぎて、穴があ
いたり破れたりしてしまい、折り紙どころで
はない。

まず、熱くて裏返せない点は分厚いゴム手
袋をつけて、手袋ごしにさわることで解決し
た。しかし、折り紙ができない点はどうしよ
う。私は母に、

「クレープが破れてしまうからどうしたら
い

光塩女子学院

いかな。

と相談してみた。母から薄焼き玉子を作る時
の話聞いて片栗粉やコーンスターチを入れ
てみる事にした。生地を何度も作り、分量を
変えてや、と破れにくいクレープができた。

そして私はクレープでワイシャツとネク
タイ、カーネーションを作り「父の日・母の日
折り紙クレープ」が完成した。

「とても素敵ね。」

「おいしいよ。面白い考えだね。」

と両親はとても嬉しそうな笑顔になった。手作りお菓子の良い所は相手を笑顔にできる事だと私は思っている。私はいつも母の手作りお菓子で温かい気持ちになり、笑顔になてきたからだ。

そしてこの作品は七四人応募の中、五人の入賞作品に選ばれた。それが昨年、五年生の時の事だ。ものすごくうれしか、たけれど、決勝の十人に届かなか、た事は少し悔しか、た。母はよくお菓子を作るのだが優勝者

光塩女子学院

の作品を見て

「すごいねえ。これは私でも時間内に作る

自信ないわ。」

と驚いていた。来年までにも、と腕をあげてまた応募しようとして心に決めた。

そして今年も春になり応募要項が発表された。昨年のテーマは「笑顔になれるお菓子」だったが、今年は「仲良くなれるお菓子」で、仲良くなりたい相手におくりたいもの、と書いてあった。仲良くなりたい、ということ

今現在友達でない方がいいのかなと私は色々考えた。私の学校は姉妹校がスペインにありその生徒達と仲良くなりたいのでスペインと日本をモチーフにしたお菓子を作る事に決めた。

しかしそこからが大変だ、た。プレッシャーからかうまうかない。まず、私のアイディアはタルト生地を作り、ゼリーを流し込むというものだ、た。タルト生地を寝かせないと

光塩女子学院

タルトは普通数時間から一晩寝かせるのだ。しかし、決勝では二時間半で全て作らなければならぬらしい。私は母にまたたずねた。

「寝かせないでタルトを作れないかな。」

私達はたくさんのお菓子の本を読んで解決方法をさがした。そして悩むこと数日、母と私はバターを使わずオイルを使えば生地を寝かさなくても良いらしいということが分かった。また分量を変え、何度も試してタルトは完成した。しかしさらなる難関が待ち受けて



いた。ゼリーがタルト生地^{タルト}に吸収されてしま
うのだ。そしてゼリーが固まるのにとても時
間がかか^た。また調べて、ゼリーを速く固
めるにはゼラチンの分量を増やすよりも氷水
でまわしながら冷やす方が速いと分か^{った}。
しかしタルト生地^{タルト}に吸収される問題がまだ
残^っている。タルト生地^{タルト}にはも、たりした生
地を流すことが多^いらしく、水分が多^いゼリ
ーは向かないかもしれない。何度もくじけそ
うにな^{った}が、ある日思^{いつ}いた。余^り、た卵液
をタルトに塗^ってコーテ^ィングしてみよう。
早速ためてみるとゼリーが吸い込まれずに
固^まった。味見をしてみたらすごく美味しい。
私は踊り出した^いぐらい嬉しくな^{った}。そし
て作品を仕上げて写真^を撮^り応募^{した}。
この瞬間^が一番ドキドキする。もしも決勝
に出られなくても、入賞^しなくてもこのお菓
子^を考えて楽し^か。た時間は私の宝物^だと思
う。

光塩女子学院

選評

「相手^{あいて}を笑顔^{えがお}に」するために、
多くの失敗^{おお}、チャレンジ、工夫^{くふう}
を繰り返^く返し、お菓子作り^{かしづく}を行^{おこな}っ
ている山口^{やまぐち}さん。家族^{かぞく}との関^かわ
り^を中心^{ちゅうしん}に、少^{すく}なくとも二年間^{にねんかん}
に渡る努力^{わた}が丁寧^{ていねい}に分^わかりやす
く描^{えが}かれており、思^{おも}わず応援^{おうえん}
したくなる文章^{ぶんしょう}です。このお菓子^{かし}
を作る^{つく}ために話し合^あい、チャレ
ンジした日々^{ひび}は、まさに人生^{じんせい}の
「宝物^{たからもの}」ですね。



たのしかったな なっやすみ

新宿区立市谷小学校（1年）

鈴木

瑛和さん

ぼくがどこまでわくわくしたこ
と。こゝろが、ついでに、ば
いさかなを、かまえたこと。す
っかりと、さかなのくちを、か
けました。えさは、えびです。えびは
ぼくのこのおなか、ひくひく、い
きやう、はいです。ぼくのいも
ち、えびが、すきです。

ぼくが、ついに、5さいのとき、か
い、てました。あかちゃんのと、ま
は、おぼろ、たり、うるさい、か
な、かに、げ、ち、う、から、い、き、ま、せ、ん
で、した。しずかに、し、ない、と、さ、か、な
す。

ぼくは、しずかに、して、つり、を、し、ま
す。つり、ざ、お、を、う、え、に、あ、げ、ま、す。
ら、つり、ざ、お、を、う、え、に、あ、げ、ま、す。
この、ま、え、は、さ、は、と、い、な、か、つ、れ
ました。さ、は、は、さん、と、く、ろ、の、し、ま
しま、も、う、と、ほ、ろ、な、か、つ、た、で、す。
え、い、な、は、く、ろ、で、お、お、さ、か、つ、た、で、す。
す。べ、ら、も、つり、ま、した。べ、ら、は、い
い、い、ろ、み、た、い、で、した。さ、は、と、い
な、より、べ、ら、は、ち、ち、か、つ、た、で、す。
い、ろ、い、ろ、お、さ、か、な、か、つ、れ、ま、し、た。
た、べ、ら、お、る、さ、か、な、か、た、の、し、み、で、す。
い、と、この、ば、い、と、この、お、い、い
ち、ん、と、い、と、この、い、つ、こ、し、た、の、こ
と、つり、を、し、ま、した。あ、は、は、や、く、お
きた、け、と、お、わ、く、あ、り、ま、せ、ん、で、し

[illegible]

た	か	り	あ	い	も		ぼ	い		う	う	ひ	っ	い	む
の	が	が	そ	ま	で	っ	く	か	で	し	え	し	て	し	と
し	で	い	び	す	き	い	は	ま	っ	も	ち	も	む	と	り
い	す	る	た	。し	な	と	ど	き	い	な	お	し	し	と	あ
ん	。い	か	い	ぜ	い	の	で	い	は	か	え	と	り	あ	み
で	い	、	す	ん	の	ど	き	わ	た	に	ま	あ	み	で	し
す	と	あ	。ば	の	な	き	と	く	と	て	。む	か	の	を	ず
	こ	と	。た	な	が	さ	さ	あ	お	あ	し	あ	あ	さ	か
	あ	さ	た	い	で	わ	わ	く	き	み	か	み	き	っ	い
	る	か	や	っ	い	く	わ	い	い	を	い	を	う	て	ち
	る	な	か	ま	っ	わ	く	の	し	な	を	ま	え	か	な
	ひ	が	ま	き	い	く	っ	で	ろ	を	ま	す		づ	つ





わくわく・ドキドキ おあい手活どう

東京学芸大学附属世田谷小学校（2年）

井上 ミモザさん
いのうえ

わくわく・ドキドキおあい手活どう

二年 井上 ミモザ

さくらがきれいな四月、朝からわくわくする気もちがあふれ、心ぞうのドキドキもおさまりません。なぜなら、私はお姉さんになるからです。でも、私の妹は「オギャー！」とはなません。お家の人につれられて学校にや、て来た新一年生なのです。

私の学校には、一年生のお世話をする「おあい手さん」と言うやくわりがあります。妹

も弟もいない私は、年下のお友だちにやさしく出来るかな。私のことをすきになってくれるだろうか。なかなかなれるか、不安な気持ちになりました。

ドキドキ・ドキドキ・頭がま、白になり、入学の会がおわりました。いよいよ、二年生になった私の初めてのおしごとです。

（せは、私よりも小さいぞ。かわいいなあ。）
（でも、手のひらの大きさは同じかな）

心の中の声は、うまく言ばになりません。教

室にあん内して、せきについてようやくあいさつをすることができました。

「私の名前は、ミモザだよ。よろしくね。」すると、おあい手さんも

「よろしくね。」

と、言、てくれました。おあい手さんの笑顔のおかげで、ふわふわ・わくわく丸くなった心は、風船みたいに空にとんで行きそうです。おあい手さんは、弟がいる本当のお姉さんで、むらさき色やリボンがすきなことを知れ

ました。また、おあい手さんと私のたん生日が一しょ、だと言うことが分かり、私の、うんめいのおあい手さんだ!!と強く思いました。入学の会のつぎの日から、大しごとがつづきます。とう校のお出むかえ、学校たんけん

ぐう。と鳴るおなかをおさえて、きゅう食のはいぜんのお世話をしました。あ、という間に一日がすぎて、下校の時間になりました。

わすれ物をしないように、おあい手さんのランドセルに物を入れてあげました。手をふ

ってお見おくりがおわるころには、もうへと
へとです。

(おあい手活どう、て太へんだなあ……)

私は、心の中でつぶやきました。でも、おあ
い手さんが楽しそうに下校するすがたを見て
元気がわきてきました。

(も。とおあい手さんとなかよくなりたいたい。あ
明日からも、も。とがんばろうと思いました。
おあい手さんのお姉さんになろうと、私は
はりきっていました。けれど、絵や歌も上手

で、きゅう食のお茶パックは、教える前に一
人でつぶせました。一番おどろいたのは、自
分から話しかけてお友だちを作れた所です。

(私がいなくても大じょうぶかな?)

お茶パックよりも心がべちゃんこにな。た日
もありました。その時、ふと私が一年生の時
のおあい手さんの顔が目にかびました。

初めて通う小学校には、大せいの人がいま
した。はじめましての先生やお友だちがいる
中で、私はドキドキきんちようしていました。

「ミモザちゃん!!」

名前をよんでくれるだけで、安心しました。
校内ですれちがうと、え顔で手をふ、てくれ
るので私もえ顔ですごく時間がふえていきま
した。すると、心がふわ。とふくらみました。
(そうだ! おあい手さんはお姉さんじゃなく
てもいいんだ。心を近づけて一しよにすこ
すだけでいいんじゃないかな?)

そう考えることが出来るようになると、おあ
い手活どうはわくわく楽しいことにかわりま
した。

うんどう会はきょう力することが一番。心
を合わせておどりました。大雨でと中で学校
に帰ることになった遠足では、わたしの一ま
いのレインコートを一しよにかぶって、ぎゃ
つと休をよせ合、ておあい手さんのかさに入
ったこともわすれられない思い出です。たす
け合うことの大切さやあい手への思いやりは
おあい手活どうで学んだことの一つです。

「ゴロゴロ、ゴロゴロ、こわいよ!」

夏休みが近づいてきたところかみなりが鳴りひびき、一年一組かうひ鳴が上りました。おあい手活どう中だ。た私は、

「こわいよう。」

ふるえて言うおあい手さんの手をぎゅっとにぎって、

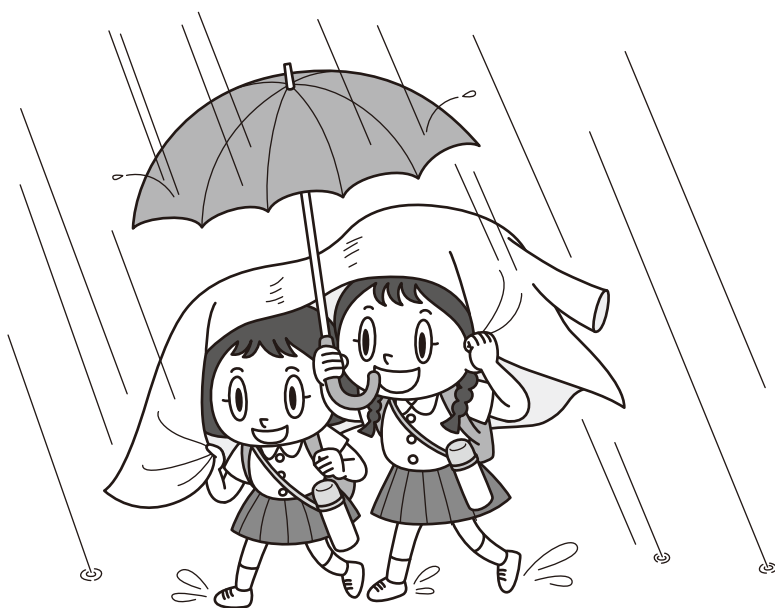
「大じょうぶだよ。こわくないよ。」

と、つたえしました。私の気もちがつたわったようにわらってくれました。かみなりを止めることはできないけれど、気もちによりそう

——

だけで心がつうじ合うんだとかんじました。二学期の末、学園祭のきせつにはおあい手さんとすっかり仲良しです。私のクラスでは音読公演を行いました。開演真近におあい手さんが来て私はおどろいてしまいました。

（おあい手さん私も私を見守ってくれたんだ！うれしくて感しゃの気もちが届くように歌いました。わくわく・ドキドキが沢山の春を元気に迎えられるよう、私のうんぬいのおあい手さん、これからもどうぞよろしくね！！）





将棋イベントの日

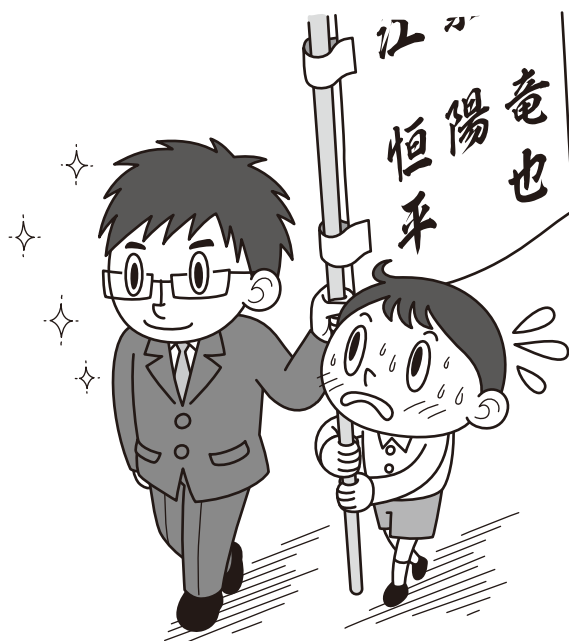
明星小学校（3年）

こばやし
小林 由作さん

将棋イベントの日
小林 由作
井上一門入場
場内にアウンスが流れた。僕は胸がドキドキしてのぼりを持つ手がふるえた。
行くぞ
一緒にのぼりを持つ菅井竜也王位が優しく声をかけてくれた。僕は将棋イベントの主さいの人に、憧れの井上一門ののぼりを持つ役を頼まれていた。のぼりには「井上一門 菅井竜也 稲葉陽 船江恒平」と、大きな文字で関西の名門で有名な井上一門の棋士の先生の名前が染めてある。二冊が開くと、会場のまぶしい光とたくさんのお客さんが見えた。僕は怖ったけど、菅井先生と一緒にのぼりを持つ。て一歩一歩進む。場内を一周するだけなのに永遠にゴールにたどり着けないうた。僕のは心臓は爆発しそうだったけど、先生を見上げると身も心もにこにこしていたら、とても心強かった。

将棋イベントが始まった。菅井竜也王位と山崎隆之NHK杯勝者の対局だ。僕は、菅井先生のとなりに座って対局も見せてもらった。普通、この対局を間近で見られることはない。だから棋士のとなりに座って、プロの対局を見られることが嬉しくて、前の日はよく眠れなかった。菅井先生が指すごとにピシッピシッ、駒音がひびく。たくさんのお客さんが対局に注目している。時々山崎先生の体がいやらやうに揺れる。菅井先生は目で睨んで胸内の将棋盤で確認をしているようだった。局面はじよいよに山崎先生の優勢にたがいていく。そして、菅井先生が投了して対局は終了した。僕は、まるで自分が対局したみたい。顔が真っ赤になった。間近に見るプロ棋士の対局の表情や駒を持つ手つきはものすごい迫力だった。
一将棋、毎日頑張れよ
帰る時、菅井先生に声をかけられた。嬉しくてドキドキした。

「ボクは井上一門のお弟子さん？」
お客さんにはお弟子さんと間違われてドキドキした。僕の心臓は一日中ドキドキっぱなしだった。





ドキドキする カブトムシとの毎日

光塩女子学院初等科（４年）

小山 愛莉さん
こやま あいり

「ドキドキするカブトムシとの毎日」
光塩女子学院初等科 四年 小山 愛莉
「カブトムシの様子が変」
私はメスのカブトムシのゼリーをかえている
時に気付いた。何をしているのだろう。大事
に育てたカブトムシが死んでしまっ。たら悲し
い。大切なのに死んでしまっ。たらどうしよう
私はとてもあせった。すぐに母と弟が来て、
みんなでグースをのぞきこんだ。その時、カ
ブトムシのお尻から出ていた物が地面に落ち
た。白くて丸い物。それは卵だった。びっく
りして、弟と喜んで土の中に卵があるかどう
かドキドキしながら、も。とさがす事にした。
その日からカブトムシはゼリーをたくさん
食べて、あわにつつまれたミリほどの小さ
な白い卵を産みつけた。メスは卵を産むと
後ろ足で卵の上に土をかぶせる。不思議、だ
れにも習。ていないのに。それでも、カブト
ムシは元気なので卵をつぶさないかと少し心
配にな。てしま。た。ゼリーは一日に５回も

かえた。中身は土にこぼす事もあるけれど、
残りはいきれいになるまで食べる。産卵の時は
とてもお腹が空いているんだ。
今年は山でカブトムシをさがす事にしてい
た。けれど一匹もない。コクワガタは見付
か。たのにカブトムシはいない。現地の方に
聞いてみたら、
「去年はすすしか。たからたくさんいたけれ
ど、今年は暑すぎて幼虫が土から出てこれ
ずに死んでしま。たのだろう」。
とお。っ。しゃ。って。いた。カブトムシが少
ないという事は、今年は見付けられないかもし
れないと不安にな。た。その後、父のてい案で
ゼリーを木の下に置いておびきよせる事にし
てみた。しかしとても悲しい結果、アリが食
べてしま。って、カブトムシやクワガタは一匹
も来な。か。た。この調子だとやはりカブトム
シは見付けられないだろうと私はが。かりし
ていた。
ち。よ。う。と、地元の朝市でカブトムシやクワ



ガタが当たるくじ引きをやっているとき、
 二日間うやうやしく戦ったが当たらずに落ちこんで
 いた。いよいよ残り一日になってしまった。
 とてもきん張してくじを引いた。たくさんの
 子ども達がならんでいたのに、なんと、私の
 ましかったカブトムシがオスとメスのペアで
 当たった。当たりだった。弟とハイタッチし
 て喜んだ。心がおどった。これから大切に育
 てるぞ、心をこめて育てるぞという気持ちで
 いっぱいだった。

それから、ケースに木と土とゼリーを入れ
 て毎日お世話をした。カブトムシはとても元
 気に動いて、丸くてかわいくて、私も元気に
 なった。

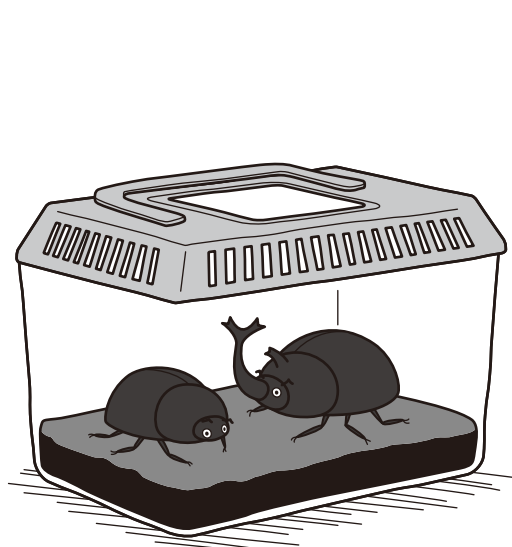
メスのカブトムシは今、産卵をがんばって
 いる。せっせと土をかぶせて働いている。子
 孫のためにがんばるぞというカブトムシの気
 持が表れているような気がする。カブトム
 シは力を使って卵を産むため、卵を産み終わ
 たら死んでしまう。悲しいけれど、自ら子ど

ものために働いているカブトムシをほこらし
 く思う。カブトムシは人間のように子育てを
 しない。親は子に自力で生きてもらわなけれ
 ばならないので、自分が死んでも生きられる
 ようにする。飼育されている場合は敵はいな
 いけれど、自然界ではどこにひそんでいるか
 わからない。そのため、親も必死で卵を守ろ
 うとするのだと思った。

カブトムシがゼリーをおいしそうに食べて
 くれたり、卵を産んでくれたり、お世話をす
 る事はとても楽しくて、私の気持ちも明るく
 なる。朝起きるとすぐにカブトムシが元気が
 見に行き、カリカリと前あしをケースにくっ
 つけて動いているすがたを見ると元気をもら
 えて、まるでカブトムシと話しているように思
 える。

いつもゼリーをたくさん食べてくれてうれ
 しいよ。ずっと元気でいてほしいな。
 うん、ずっと元気でいたいな。卵を大切に
 してね。君に仕えるよ。

カブトムシがいる事で、私はこの夏休みド
キドキ、ワクワクした発見の日々を過ごして
います。





江戸風鈴のわくわく体験

光塩女子学院初等科（4年）

鮫島 さめしま

麻里菜 まりな さん

「江戸風鈴のわくわく体験」
光塩女子学院初等科四年 鮫島 麻里菜
「チリンチリンミ」
軽やかな風鈴の音が聞こえてきます。打ち
上げ花火の音、エイサーに代表される和太鼓
の音、笛の音、もちろんセミの鳴き声もミ。
音を聞くだけで、「ああ、夏だな」と実感し
ます。夏休みになるので、大好きな学校はお
休みで行けないけれど、大好きなお姉ちゃん
が産まれた季節。私は夏が大好きです。

「江戸風鈴のわくわく体験」
今年、夏、私は江戸風鈴作りの体験に出か
けました。風鈴は夏の風物詩です。風が吹く
たびにペラペラから素敵な音を届けてくれる
風鈴を、自分で作れるなんてミ。私はお家
の中でスキップしてしまいました。
商店街の中に「篠原まるよし風鈴」という
お店がありました。ちょっと狭い入り口を通
って奥まで行くと、大きなかまの中で火が燃
えたぎっていました。今年はまだ暑と言われ
る暑さですが、外の暑さとは比べ物にならな
い暑さです。そのかまの前に、やさしそうな
おじさんが立っていました。篠原正義さん、
このお店の店長さんです。はっぴが似合いそ
うなおじさんの姿をみて、お祭りを思い浮か
べてしまいました。江戸風鈴は、風鈴の中に
ある、音を鳴らすおもりが鳴り口にふれ合
たときに普通の風鈴に比べて、ガラガラした
感じの音が出るという特徴があるそうです。
普通の風鈴は、ロの部分でギザギザしていま
せん。でも江戸風鈴は、音が出やすいように
底面をわざとギザギザにしているのです。だ
から、ここで手をかけないようには気を付け
て取り扱ってね、と言われました。おじさん
は、
「本当はこの風鈴を作れるようになるまでに
十年かかるんだけど、今日はおじさんがお
手伝いするし、絶対に出来るから楽しんで
いってね。ここで一番大切なのは、楽しい
大好きという気持ちなんだよ」
と教えてくれました。私は少し驚きました。

テレビなどでよく見る多くの職人さんは、こ
むずかしい顔をして、これは難しんだ、な
かなか出来ないものなんだ、と言っていたか
うです。

かまから出てきたガラス。まるで火の玉の
ようにした。さあ、ちようせんしてごらん、
と伝わってきました。よし！やるぞ！まずは
一人で吹いてみました。プクッとかふくらん
だのはいいのですが、いびつなおかしな形
になってしまいました。これでは絶対に良い

音は鳴らないな、と吹き出してしまいました。
ほら、やっぱりおじさんの言う通り、難しい
でしょ、とガラス玉まで笑っているようにし
た。

次に、おじさんに手伝わしてもらいました。
そっと吹いてみると、一瞬真白にふくらみ
ながらすぐに透明になりました。その一瞬を
見逃さず、ストップをかけてくれました。

「これで思いのこもった音が決まったよ。本
当は三年かかるんだけどね。今日はおじさ

んが魔法をかけているから。次は十年のと
ころ、いくよ。」

本当にちようとした力加減なのです。うれし
いのと楽しいのとで、思わず笑顔になりまし
た。次に吹いてみると、きれいな丸型にふく
らみました。この透明のうすいガラスが風鈴
に变身するのです。

「たくさんのお思いを込めて出来たかな？その
思いがいい音につながるんだよ。一つ一つ
全部音が違うのは、思いがみんなそれぞれ

違うからなんだよ。」

とおじさんは教えてくれました。この風鈴の
中には私の思いがたくさんこもってる！どん
な音になっていくのかな？と仕上がりを楽し
みになりました。ふと周りを見るとみんなが
笑顔になっていました。私には、おじさんが
本当の魔法使いに見えました。

絵付けも終わり、ひもをつけてもらって完
成です。世界で一つしかない、私が作った江
戸風鈴、そっとふってみると、

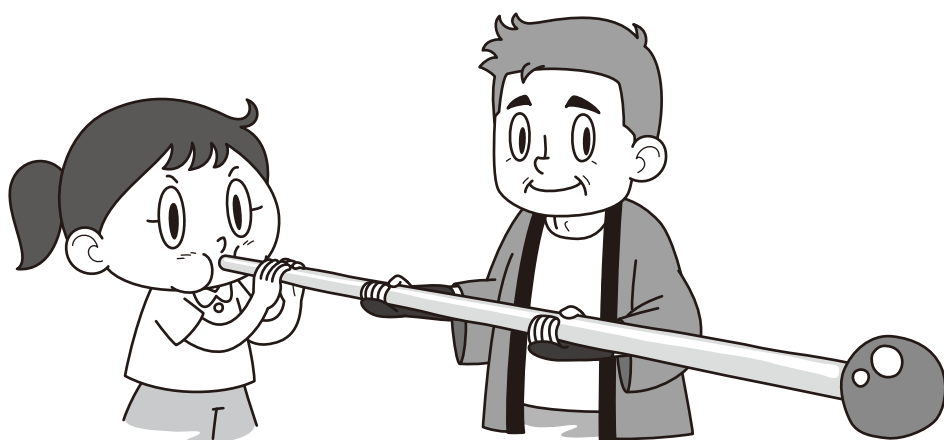


「チリンチリン」

普通の風鈴よりもぼんの少し低めの、とても、とても澄んだ音がひびきわたりました。お姉ちゃんのものも、お友達のものもみんな違う音色です。一緒に鳴らすと合唱のようににぎやかになりました。すぐにでも浴衣を着てお祭りに行きたいな、と思いました。

こんなに素敵な日本の文化をうけつぐ店が今は二件しかないと聞いて私は本当にびっくりしました。でも、こんなに素敵な体験が出来る、私が大人になっても、この江戸風鈴はなくなつてほしくないなと思いました。江戸風鈴を作る体験の機会を与えてくれたおじさんと、連れて行ってくれたお母さんとお姉ちゃんに、ありがとう、と伝えました。

大好きな夏にまた一つ、素敵な思い出が加わりました。世界に一つしかない私の江戸風鈴は、私の宝物になりました。本当にありがとう！





達成感を感じる

練馬区立泉新小学校（5年）

菊地 きくち

いっころさん

達成感を感じる

菊地 いっころ

今年の五年生はソーラン節です。わたしはおどりが得意だから、「今年も楽しみな」とワクワクしていました。

でも始まってみるとソーラン節のおどりは見た目はかんたんそうでもとてもむずかしいものでした。こしをおとすことや、手や足をのばすことなどでよく注意されていました。動きがはげしく、体力をとんでも使うので今ま

でのおどりで一番つらかったと思います。それでも、毎日休まず練習し、ふりつけないで覚えて、ソーラン節の検定も一発合格したのです。練習の時は心の中で「もうおどれないよ、のびがかわいたし、手足もいたいしもうダメかも」と思っていたけれど、今ではあの練習のおかげで成功したのだと思います。それでもあきらめないで練習してよかったことがたくさんありました。ソーラン節のフイナーレをかざる旗を持つクラス代表に選ば

れたこともその一つ。わたしはこの役目を聞いたとき、すぐにやりたいと思いました。心の中では「去年の五年生はフイナーレの旗を持っていた人がとてもキラキラと輝いていて、カッコよくて、すごいから自分もあんなふうになりたい」と思ったのでしよう。この役はおどりに情熱がある人ができる役なのです。「いままでがんばって練習してきたわたしならこの役にぴったりなはずだ」と心の底から思ったのです。でも、他にも選ばれたいとい

う人たちがいて、その人たちもおどりがとてもうまい人たちが心配しました。「これじゃ選ばれないかな」とあきらめませんでした。この練習の成果をここで見せつけようと思ったのです。オーディションの時音楽と同時におどりだすと、みんな全力でした。その中でも、わたしは教えてもらったコツを使ってテキパキとおどりました。そして結果はみごとに合格です。とてもうれしくてたまりませんでした。



旗を持つ時には下にいる二人がわたしの足を支えて、わたしが二人の太ももに乗り旗を上げます。最初に乗った時はとてもふらふらしていたけれど、練習をしていく内にどんどんバランスがとれていきました。「高くて落ちそうなのは分かるけどがんばって立たなきゃ」と自分にいい聞かせながらも、先生達からアドバイスをもらいどんどん上達していきしました。「本番楽しみだな、ママやパパに見せたらなんていうかな」と前日の夜考えていました。

ついに本番。心ぞうがドキドキとなりひびき、手あせをたくさんかいていました。もしかしたら、「おどっている時に転ぶかも」。旗を持つ時にふらふらして落ちるかも。と不安でいっぱいでした。でもそんなこと思っていたら、よけいに失敗してしまうかもしれない、だから自分を信じてがんばりました。わたしは手を上げたり、足をのばしたりいろんな動きをしておどりを完成させた時、自分の

力をすべて出した気がしました。いままでのうれしさや苦しさと努力をこの旗にこめて終わらせる時、むねをはって大きく旗を持ちました。周りからはとても大きな拍手がすごく輝いたと思いました。

わたしにとって達成感とは、何かをやりとげるだけではなく何かをやりとげて「今、自分は輝いている」と感じるのだと思います。何かをやりとげたら、だれかにすごいと言われます。それはその人が輝いているからすごいと言いたくなるのではないのでしょうか。

わたしはこれから、何事もあきらめないで最後までやりとげること忘れずに、いろいろな事にチャレンジしていきたいです。そして自分をもっと輝かせていきたいです。



空からの贈り物

光塩女子学院初等科（6年）

宮田

侑季さん

空からの贈り物

光塩女子学院初等科 六年 宮田 侑季

「私、今年こそ絶対に見られる気がする！」
ニョー入を見た私はぴょんぴょん飛び上がった。
ていおどりしてしまいました。ニョー入では
パールセウス座流星群について伝えていました。
毎年八月十二日から十三日ごろに観測できる
流星群で一月のしぶんぎ座流星群、十二月の
ふたご座流星群とともに、「三大流星群」と
呼ばれています。今年は八月十一日が新月の
ため、月明かりの影響を受けずに良い条件で
流星を観察することができるそうです。私は
小さい時から星が大好きなので、この時期は
毎年近くにある空がよく見える「原っぱ公園」
に観に行っています。でも、曇っていたり街
灯が明るかったりして実は生まれてから一度
も観たことがありませんでした。条件が良い
今年なら、きっと私も観られるのではないか
と思い、カレンダーに大きな星印を書いて衆
しみに待つことにしました。

光塩女子学院

光塩女子学院

いよいよ十一日になりました。だんだん辺
りが暗くなってきたので、ベランダに何度か
出て夜空をながめてみました。思いの外、空
は雲がおおいかがわさっていて、星が一つも見
えませんでした。夜に雲が見えるなんて、東
京の空は明るいんだなと改めて感じました。
「夜中なら、雲が消えているかな。一番観測
しやすい時間帯に起きようかな。」
と思い仮眠をしました。十二時すぎにまた空
を見てみると星が一つも出ていませんでした。
「やっぱり今年も見られないのかな。こんな
時に曇りだなんて。」
と少しがっかりしてしまいました。あまりに
落ち込んでいる私を見たお父さんが天気予報
を見てくれました。
「条件はいいはずだとは言っても雲がなくは
らないと見えないよ。天気予報ではここ数
日の間は雨や曇りが続くみたいだから、残
念だけれど他の人達も観られないよ。」
となぐさめてくれました。



光塩女子学院

十二日の夜も天気予報とおり実際に曇りて、
 星空は見えずうにありませんでした。諦めき
 れない私は、夜の十二時ごろまで時間をおい
 て何度外に出てみました。少し雲が薄くな
 った時もありましたが、しっかりと星が見え
 るような状況ではありませんでした。夜もお
 そいのでねるように言われた私はしぶしぶ
 ツドに入りました。どうしても諦めがつかな
 い私は全く眠りにつけませんでした。そのう
 ちに、二日連続で曇ってしまったことや自分
 がねている間に見るチャンス逃してしまっ
 たのかも様々な事を考え出してしまい、突
 然号泣してしまいました。
 「やっぱり、どうしても見たい。」
 そう思った私は気持ちを抑えられなくなっ
 てわがままを承知の上で父さんとお母さんの
 寝室に駆け込みました。
 「流星群の観測をあきらめたくない。無理か
 もしれないけれど、どこでもいいから流星
 が見えるところまで連れて行って。」

と今までの私の思いを一生けん命伝えてみま
 した。するとお父さんが
 「無理かもしれないけれど天気予報だと九十
 九里浜辺りまで行けば晴れているかもしれ
 ない。行ってみよう。」
 と車を出してくれることになりました。千葉
 に行くまでの車中、私は夜中なのに眠気も飛
 んでずっと空を見続けていました。すると、
 レインボーブリッジに近づいた時、東の空に
 星が見えてきました。興奮した私は
 「雲が見えなくなってきたよ！」
 と大きな声でさげんでしまいました。真夜中
 のアキララインは真、暗な世界に浮かぶ光る
 道の様でとても神秘的でした。星をたよりに
 して、近くのインターチェンジで高速道路を
 降りてみました。ちょうど周りに何もなし
 があつたので車から降りて空を見上げると、
 しっかりと星空が見えました。放射点がある
 と言われている北や東と方位磁針で探してな
 がめました。風が強くて途中で雲が流れて来

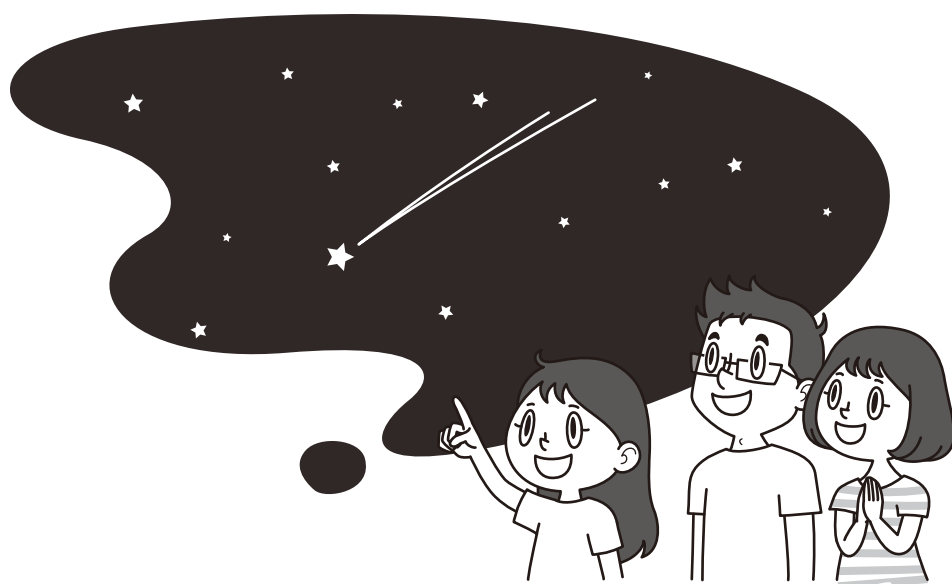
て、ひやひやしました。いつもと同じ夜空に
 本当に今日流星が流れるのかなと心配になっ
 てきたころ、突然明るい一本の線のような光
 が見えました。その光はすーっと上から下に
 流れて消えていきました。

「あ、今のそうだよね、見えた！」

と私がさけぶとお父さんとお母さんも歓声を
 上げました。実際に流星を見て一瞬の出来事
 でしたが、今まで感じたことがない気持ちに
 なりました。沢山の流星は見られませんでしたし

たが、このような気持ちにさせてくれた流星は
 空から私にくれた素敵な贈り物なのだと思ひ
 ます。星空の観察で宇宙の無限の広さを感じ
 る事ができ、ますます星が好きになりました。

流星群のことや見られる場所を色々調べ
 てくれたり、私のわがままを聞いてくれたり
 したお父さんやお母さんに心から感謝したい
 と思います。小中学校生活最後の夏休み、真夜
 中の大昌陵ができてとても楽しかったです。





わくわくする事

目黒星美学園小学校（6年）

伊藤 百合さん

「わくわくする事」

目黒星美学園小学校 六年 伊藤 百合

私がわくわくするとききする事は、大げさなものではない。遊園地とか旅行とかも。と特別な事もたのしいが、私は日常のことにもわくわくしている。人から見ると、「えっ、こんな事が楽しいの!」と思われると思うが私には小さい、たわいもないことが大きなもの、特別なものに見える。

私がわくわくするのは、例えばこんな事や

物だ。セミの抜けがらをすみずみまでよく見る。冬、白い息で遊んでみる。イチヨウの落ち葉を幼い子供みたいにざばーんとかぶってみる。カタバミの葉で十円玉をみかくと、ピカピカになる。サザンカの奥の方のみつをなめてみる。氷のもようを見て友達と感動する。他にもまだまだあるが、きりがないのでこのへんでやめておく。具体例を書いていううちに、何かに似ていることを思いたした。それは、清少納言の「枕草子」。今のは枕草子ほ

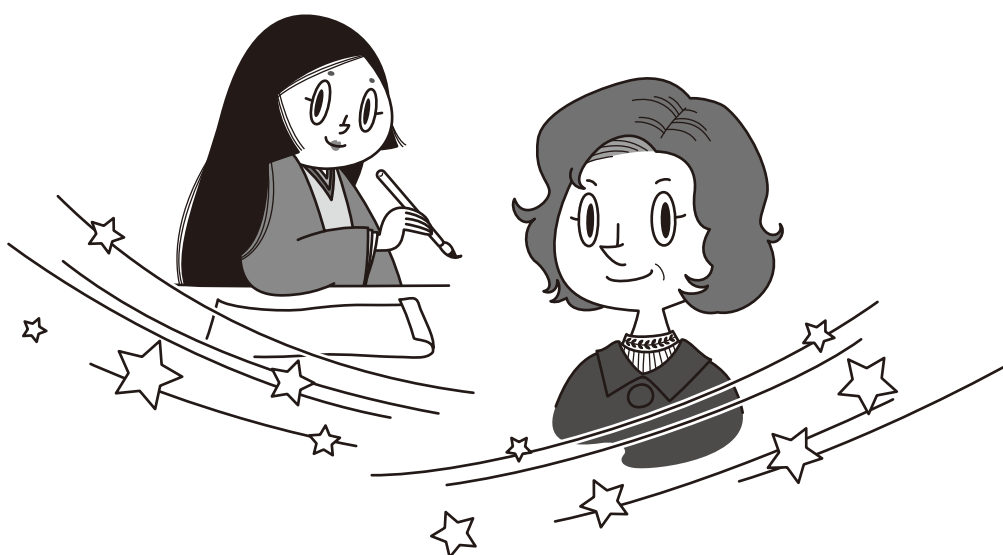
ど高尚ではないが、どこか似ている。ずっと昔の人も、あれやこれに感動していたりときどきしていたのかなあなんて考えるところ、と楽しい。

私は、このようなことを見たり感じたりすると、何か世界の秘密をのぞき見たようでドキドキする。小さなものに、大きなものが息づいている気がする。他にも、こんなことを思っ、っていた人かいる。

「地球の美しさ」と神秘を感じとれる人は、科学者であろうとなかろうと、人生に飽きて疲れたり、孤独にさいなまれることはないでしよう。

これは、「沈黙の春」で環境問題をうったえた海洋生物学者、レイチェル・カーソンの残した言葉だ。もし今、人生に疲れた人や、自分は孤独だと感じている人がいたら、一秒でもいいので空を見上げてみてほしい。何かいい事がある気がするし、自分の悩みがとてもし小さい事に思える。

私は、自分^レ楽しいことを見つけてることを大切^レにしている。一輪の花が咲いてるのをみつけ、それを喜ぶことができる人は、きっと楽しい生活を送ると思う。小さな幸せ、小さな喜びでも喜ぶということは、人生を楽しむするカギかもしれない。そして、その小さな幸せは、与えられるものではなく、自分でつくり出すものだと思う。いつも受け身では自分から動き出すことはできない。いつも、わくわく、ときどきできることを探して、友達や家族と笑い合えたうすぐいいなと思う。



作文の審査を終えて

審査員の先生〈敬称略〉

宮崎 光次郎
臂 美沙都

清瀬市立清瀬第十小学校教諭（東京都小学校国語教育研究会）

練馬区立高松小学校教諭（東京都小学校国語教育研究会）

今年の作文テーマは「どきどき・

わくわくしたこと」。応募された作品は、どれもみなさんが実際に体験したことが一生懸命に綴られていて、たくさんのどきどきわくわくが詰まっていました。

低学年の作品には、家庭や学校で過ごす中で感じたことが中心に書かれていました。家族との旅行。初めての運動会。二年生になり年下の一年生を初めて迎える瞬間。初めて体験したことへの素直な感動が伝わってきました。でき

るようになったことへの喜びを表す文章に、力強さを感じました。中学年の作品には、学校の友達や習い事、家で飼っているペットなど身近な人との様々な関わりの中で気付いたときどきわくわくが

多くありました。読み手を惹き付ける題名の工夫や比喩の数々に「お見事」と思わず笑顔になって

しました。

高学年の作品は、自らが決めた目標に向けて葛藤するようなどきどきが多くありました。葛藤を乗り越えるためには何が必要なのか。どうしたらもっとよい結果につながるのか。自分自身と向き合い解決策を探り、そして、さらにやり通そうと努力する姿が目に浮かび、応援したいという気持ちになりました。

思いを言葉にすることは意外に難しいことです。しかし、文の巧さ以上にどの応募作品からも「伝えたい」という思いが強く感じられ、読み手としても、どきどきわくわくの連続でした。

生活する中で、私たちは多くのどきどきわくわくを体験します。その感情は、きれいな絵の具で色付けするように、自分の生活や感情を色鮮やかなものにしてくれる

ものです。これだけの思いの伝えられるみなさんは、きっとこれからも、体験や発見から色々なことを感じ、考えていくのでしょう。素敵な思いを大切に、これからも「書くこと」で伝えることを楽しんでほしいと願っています。



審査中の宮崎光次郎先生（左）、臂美沙都先生（右）



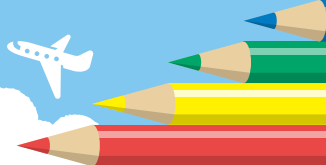
日本でいちばんたかい山ふじ山 世田谷区立山野小学校 (1年) 川島 陸さん
 魚ムシャムシャ カワウソくん 東京学芸大学附属小金井小学校 (2年) 石樽 まいさん
 森のカブトムシ 世田谷区立山野小学校 (3年) 武田 清廉さん
 1ぴきのトラ 八王子市立式分方小学校 (4年) 鈴木 幸和さん
 いつもひなたぼっこをするねこの丸 瑞穂町立瑞穂第四小学校 (5年) 斗澤 彩花さん
 夕日に浮かぶ花 足立区立栗原小学校 (6年) 佐藤 真彩さん



ねこ 絵画造形サークル (1年) 大越 萌衣さん
 いるかのかぞく 成蹊小学校 (1年) 斜森 咲希さん
 メスに吸収されるチョウチンアンコウのオス 光塩女子学院初等科 (2年) 丸山 凜さん
 走っているイノシシ 世田谷区立山野小学校 (2年) 矢藤 滉大さん
 雪ふるカラフルな町 江戸川区立東小岩小学校 (3年) 今村 瑞希さん
 ぞうのふうふ 中央区立常盤小学校 (3年) 山崎 恵伝さん
 これがぼくの笑顔 荒川区立第五峡田小学校 (4年) 野田 凌万さん
 しんぴの海 中野区立啓明小学校 (4年) 吉崎 新那さん
 くまサーカス 八王子市立式分方小学校 (5年) 仲嘉 脩磨さん
 クジランとゆかいな仲間たち 瑞穂町立瑞穂第四小学校 (5年) 関口 嵐大さん
 祭りの神様 港区立芝小学校 (6年) 篠田 侑里さん



すきなものがいっぱい 世田谷区立山野小学校 (1年) 今村 真緒さん
 いろいろな色やかたち 世田谷区立山野小学校 (1年) 名波 彩花さん
 ぼく 東京都立大塚ろう学校 永福分教室小学部 (1年) 三枝 大翔さん



コンクール入賞者

ぼく……	東京都立大塚ろう学校 永福分教室小学部 (1年)	高橋 一星さん
いい天気には歩いているペンギン	世田谷区立山野小学校 (2年)	五位野 詩生さん
ぜつめつしてしまった生きものたち	世田谷区立山野小学校 (2年)	福田 昊生さん
うみにいるクラゲと子ざかな	世田谷区立山野小学校 (2年)	牧田 桃花さん
シマシマカラフルざかな	世田谷区立山野小学校 (2年)	山田 知凜さん
雪いっぱいもった町	江戸川区立東小岩小学校 (3年)	堀内 大暉さん
雨の中のはぐれた3頭のしか	中央区立常盤小学校 (3年)	松廣 芽依さん
魚の群れ	東京都立大塚ろう学校 (3年)	原 怜菜さん
海の中の生き物は?	文京区立根津小学校 (3年)	岡村 佳歩さん
よ空いっぱい広がる星とはくちょう	文京区立根津小学校 (3年)	川端 芙空さん
自分のかお	荒川区立第五峡田小学校 (4年)	高橋 りずさん
わらった自分	荒川区立第五峡田小学校 (4年)	山岸 穂菜美さん
がんばれ筆鳥君	墨田区立中川小学校 (4年)	中村 紗愛さん
日本代表ユニホーム	世田谷区立山野小学校 (4年)	畑中 大輝さん
顔……	東京都立大塚ろう学校 城東分教室小学部 (4年)	増川 優真さん
サッカー……	…… 絵画造形サークル (5年)	高橋 侑大さん
不思議な世界……	葛飾区立こすげ小学校 (5年)	渡辺 そらさん
私……	東京都立大塚ろう学校 永福分教室小学部 (5年)	上川 心愛さん
私……	東京都立大塚ろう学校 城東分教室小学部 (5年)	原 健人さん
見取り図の世界……	福生市立福生第一小学校 (5年)	新垣 大裕さん
日の出に咲く美しく危険な大きな睡蓮	…… 足立区立栗原小学校 (6年)	小林 晃人さん
新たな世界……	…… 足立区立平野小学校 (6年)	富澤 樹さん
楽しかった時……	…… 町田市立南大谷小学校 (6年)	牧野 智陸さん



日本でいちばんたかい山 ふじ山



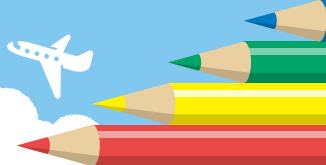
世田谷区立山野小学校（1年）

川島

陸さん

選評

初めての小学校での夏休みに、富士山へ旅行をしたのでしようか。その時の楽しさや、富士山の大きさを目の当たりにした驚きがよく表れていますね。紙で部品をつくり、切って貼って版をつくっていますか、髪の毛、1本1本や目の瞳の形まで、細かくつくり込まれていてすてきだと思いました。



魚ムシャムシャ カワウソくん



東京学芸大学附属小金井小学校（2年）

石樽 いしぐれ

まいさん

選評

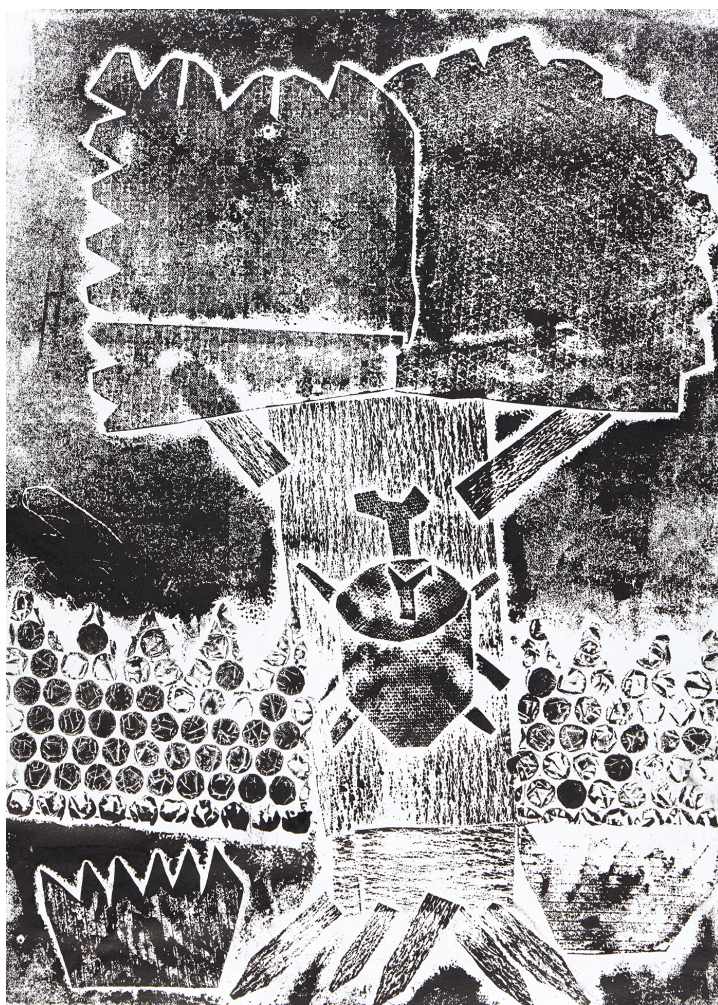
今、まさに魚を食べようとしているカワウソの迫力がよく伝わってきます。カワウソが大好きで、よく観察したのでしょ。紙以外の材料も使って、版をつくっているの、素材感の違いを体とせば、手、ひげで分けて表しているのもすばらしいなと思いました。じっと見ていると何の材料を使っているかわかって面白いです。



森のカブトムシ

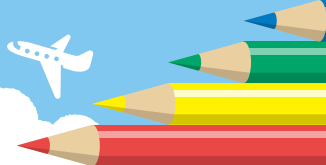
世田谷区立山野小学校（3年）

武田 清廉さん



選評

紙や緩衝材などいろいろな材料を使って、版をつくっているのだと思いますが、素材感をうまく利用して、木や草や周りの様子を表現しているのが、黒色一色で刷られている良さが生かされています。形がはつきりと表れているので、カブトムシも目立っています。夏の暑い日にカブトムシを見つけた感動が伝わってくる作品ですね。



1 ぴぎのトラ



八王子市立式分方小学校（4年）

鈴木

幸和さん

選評

初めて彫刻刀を使い、板を彫って版をつくったのだと思うのですが、彫る線の向きを考えたり、トラが今にもエサを取りそうな体の形をよく考えたりしてつくったのが伝わってきて、力作だと思いました。黒色で刷った後に、着色しているようですが、色合いもきれいで、作品にとっても合っていてすてきです。



いつもひなたぼつこを するねこの丸

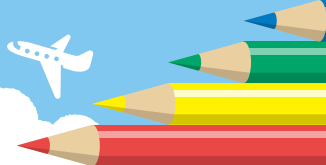


瑞穂町立瑞穂第四小学校（5年）

斗澤 彩花さん

選評

ネコが春のひだまりの中、気持ちよさそうに昼寝をしている様子への暖かいまなざしが伝わってくる作品です。背景の線を彫る向きと、ネコの体の線を彫る向きをよく考えて彫っているので、ネコの丸さがよく分かります。彫ったらインクをつけて刷り、また彫って刷るを繰り返す、掘り進み版画ですが、色合いをよく考えて表現できていてすばらしいと思いました。



夕日に浮かぶ花



足立区立栗原小学校（6年）

佐藤 真彩さん

選評

一版多色の版画で、いろいろな色を使っていて夕日のグラデーションや下部の草の色を変えるところなどに工夫が見られます。花や緑にあふれた自然のすばらしさを表していると思うのですが、小さなドングリやキノコを配置しているところに、佐藤さんの優しさを感じました。花びらの線や葉の葉脈の線を残して彫っているところにも感嘆しました。



ねこ

絵画造形サークル (1年)

大越^{おおこし}

萌衣^{めい}さん



いるかのぞく

成蹊小学校 (1年)

斜森^{なもり}

咲希^{さき}さん





メスに吸収される チョウチンアンコウのオス

光塩女子学院初等科 (2年)

丸山 凛さん
まるやま りん



走っているイノシシ

世田谷区立山野小学校 (2年)

矢藤 滉大さん
やとう こうた





雪ふるカラフルな町

江戸川区立東小岩小学校（3年）

いまむら
瑞希さん

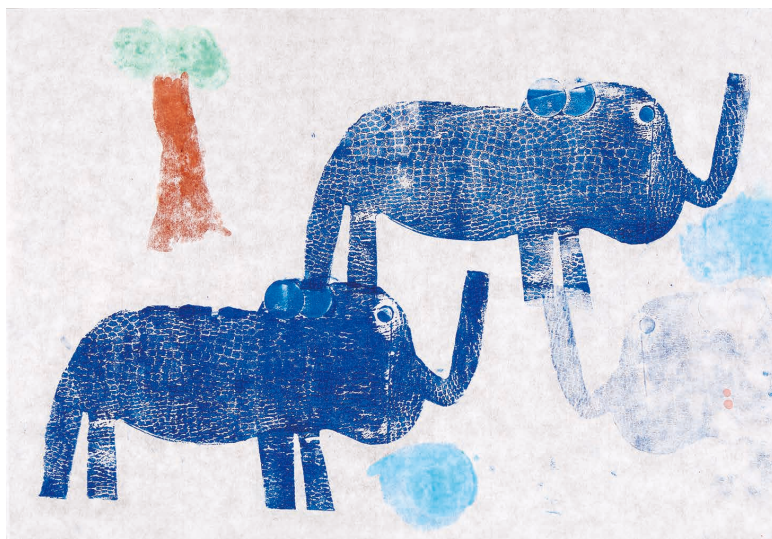


ぞうのふらふ

中央区立常盤小学校（3年）

やまざき
山崎

えでん
恵伝さん





これがぼくの笑顔

荒川区立第五峡田小学校（4年）

野田 凌万さん
の だ りようま



しんぴの海

中野区立啓明小学校（4年）

吉崎
よしき

新那さん
に な



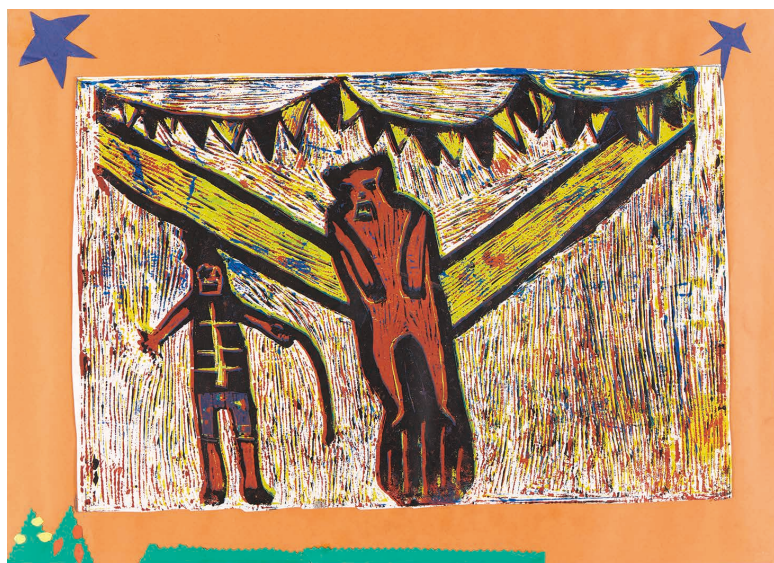


くまサーカス

八王子市立式分方小学校（5年）

仲嘉^{なか}

脩磨^{しゅうま}さん



クジラと ゆかいな仲間たち

瑞穂町立瑞穂第四小学校（5年）

関口^{せきぐち}

嵐大^{あらかた}さん



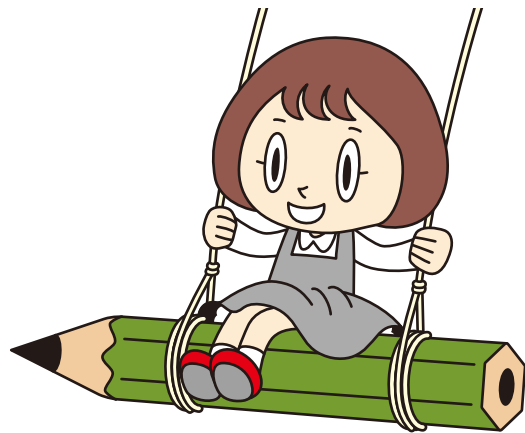
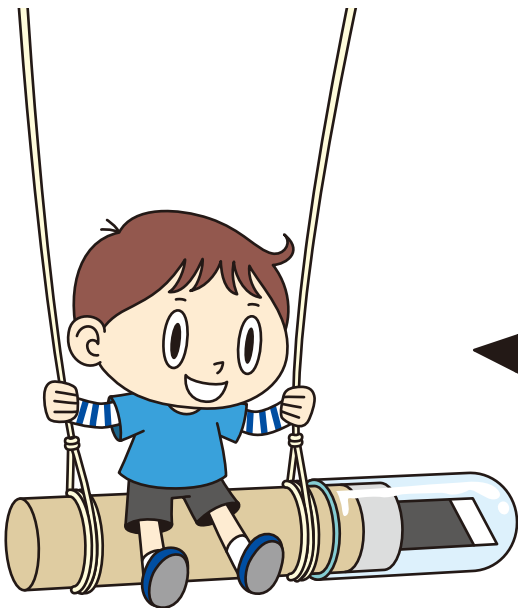


祭りの神様

港区立芝小学校（6年）

篠田 しのだ

侑里 ゆり さん



版画の審査を終えて

審査員の先生〈敬称略〉

麻 佐知子
齋藤 貴子

新宿区立東戸山小学校主幹教諭（東京都版画工作研究会ゼミ担当）

荒川区立第二峡田小学校教諭（東京都版画工作研究会事務局庶務部長）

筆や指先を使って画用紙などに直接描くのと比べて、版画は手間のかかる表現方法です。まず、版をつくり、それを刷って写すという二つの段階があるため、ある程度の見通しをもって制作を進めなければなりません。版づくりや刷りの過程が、さらにそれぞれいくつかの段階に分かれている複雑な工程の版画もあります。思いつくまま勢いのままにすすめることもできる描く活動とちがって、版画の製作はよく考えて、計画的にすすめる必要があるのです。

指導する先生も、版をつくったり刷ったりするための用具や材料、写したり乾かしたりするためのスペースなど、用意しなければならぬものたくさんあります。手間も時間もかかるのです。それでも、版画ならではの美しさや版画制作の過程でなければ得られない学びは多く、版画工作の教

科書では各学年に版画の題材があります。

一、二年生は初めての紙版画やリズムカルなスタンプ版画、ローラーを自由に走らせて生まれた作品から、子どもたちが楽しく取り組んだ様子が感じられました。

三、四年生は、最も応募点数が多く、紙だけでなく様々な凹凸のある材料を組み合わせた作品や、彫刻刀を初めて使った木版画が見られました。木版画も、インクで刷った裏側から彩色するなど工夫した技法のものもあり、子どもたちが、次はどうなるかワクワクしながら取り組んだ様子が伺えました。

五、六年生は高学年らしく、多色版画、彫り進み版画、ステンシル版を重ねたものなど、さらに複雑な工程で仕上げる作品が見られました。どれも、出来上がりの効果を見通して少しずつ進めてゆく

根気強さや、刷り上がったときの達成感が伝わってきました。

審査では、版画らしいよさが表れていることを中心に、作者の思いが強く感じられる作品を選ばせていただきました。

最後になりましたが、子どもたちの豊かな表現を引き出し、作品を応募してくださった指導者、保護者の皆様に心より感謝申し上げます。



審査中の齋藤貴子先生（左）、麻佐知子先生（右）



応募いただいた学校と作品数

学 校 名	作文	版画	合計
足立区立栗原小学校		8	8
足立区立千寿小学校	2		2
足立区立千寿常東小学校	4		4
足立区立東洲江小学校	1		1
足立区立平野小学校		178	178
荒川区立第五峡田小学校		81	81
江戸川区立小松川第二小学校	1		1
江戸川区立篠崎第三小学校	1		1
江戸川区立東小岩小学校		64	64
大田区立山王小学校	2		2
絵画造形サークル		16	16
葛飾区立こすげ小学校		20	20
北区立浮間小学校	4		4
国本小学校	2		2
光塩女子学院初等科	38	6	44
江東区立第二辰巳小学校	2		2
江東区立第六砂町小学校		3	3
小平市立小平第五小学校		14	14
品川区立浅間台小学校	1		1
聖徳学園小学校	1		1
白百合学園小学校	1		1
新宿区立市谷小学校	2		2
杉並区立永福小学校	1		1
杉並区立浜田山小学校	2		2
墨田区立中川小学校		41	41
墨田区立業平小学校	5		5
成蹊小学校	1	1	2
世田谷区立山野小学校		705	705
台東区立谷中小学校	1		1
中央区立明石小学校	1		1

学 校 名	作文	版画	合計
中央区立常盤小学校		50	50
筑波大学附属小学校	1		1
帝京大学小学校	17		17
東京学芸大学附属小金井小学校		1	1
東京学芸大学附属世田谷小学校	1	1	2
東京都立大塚ろう学校		31	31
東京都立大塚ろう学校 永福分教室小学部		23	23
東京都立大塚ろう学校 城東分教室小学部	10	18	28
東京都立光明学園		6	6
東京都立町田の丘学園		9	9
桐朋小学校	2		2
中野区立新井小学校		1	1
中野区立啓明小学校		1	1
練馬区下石神井小学校		2	2
練馬区立泉新小学校	31		31
八王子市立式分方小学校		32	32
羽村市立小作台小学校		1	1
東久留米市立第二小学校	3		3
福生市立福生第一小学校		20	20
文京区立根津小学校		19	19
宝仙学園小学校		2	2
町田市立南大谷小学校		23	23
瑞穂町立瑞穂第二小学校		1	1
瑞穂町立瑞穂第四小学校		66	66
港区立芝小学校		6	6
武蔵野市立第三小学校	1		1
武蔵野市立第四小学校	1		1
明星小学校	4		4
目黒星美学園小学校	8		8
立教女学院小学校	1		1
総 合 計	153	1,450	1,603

(50音順)



応募作品数・学校数

作文の部

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合 計
応募作品数	13	20	13	17	71	19	153
応募学校数	10	13	9	9	10	8	32

版画の部

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合 計
応募作品数	186	214	267	478	220	85	1,450
応募学校数	7	8	10	19	16	6	32

応募作品数合計……………**1,603点**

応募学校数合計……………**60校**

※作文の部、版画の部の両方、および複数の学年にご応募いただいた学校があるため、各部の応募学校数の合計とは異なります。

全労済東京推進本部



たすけあいの心から生まれた
多彩な共済で安心を。

全労済
公式キャラクター
ビットくん

誰かが困ったときにたすけあい、誰でもあたりまえに暮らせる安心を。

全労済は、生命や損害はもちろん賠償の分野までトータルに保障をご用意しています。

これからも、たすけあいの心で

常に時代にあった保障のカタチを提供し、安心をお届けします。

全労済の **住まい共済**

火災共済・自然災害共済

こくみん共済

⑧ **総合医療共済**

⑨ **せいめい共済**

マイカー共済

自賠責共済

団体生命共済

交通災害共済

新セット移行共済

全労済は、営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしをめざしています。出資金をお支払いいただいて組合員になれば、各種共済をご利用いただけます。

保障のことなら

全労済

全国労働者共済生活協同組合連合会



全国労働者共済生活協同組合連合会

東京推進本部

(東京労働者共済生活協同組合)

〒 160-0023 新宿区西新宿7-20-8
TEL : 03-3360-6055